

本号について

この『山口大学独仏文学』第29号は、河中教授の退官記念号となるはずでした。河中教授には、退官のあいさつ文、略歴と業績表をお書きいただいたほか、ご自身の退官記念号だからということで、論文も1本寄稿していただいております。しかしながら、校正作業に入り、雑誌の完成まであともう少しといった時に、ご自身の退官記念号を見ること無く、河中教授は逝ってしまわれました。あまりに突然のことに、誰もが言葉を失い、未だに何か信じられないという気持ちがいたしております。

本研究会では、本号を河中教授の追悼号と改め、発行することといたしました。が、河中教授にお書きいただいた原稿は、貴重なご遺稿ですので、すべてそのままの形で掲載することといたしました。そのため、この本号に関するご説明の文章と、この後に続く準会員の米沢先生による追悼文を除き、本号は河中教授の退官記念号として企画していた時のままの体裁になっております。お読みになって少々違和感を持たれるかもしれませんが、ご理解賜りたく存じます。

河中教授は3月に定年退職した後も準会員として本研究会に留まり、ご自身の研究成果をこれからも本誌に発表し続けられる、本研究会の会員は誰もがそのように思っていたはずで、人の運命とは本当に分からぬものです。河中教授には、心からご冥福をお祈り申し上げます。